

- AI (Artificial Intelligence、人工知能)とは、人間の思考プロセスと同じように動作するプログラムのことで、さまざまなレベルのものが存在します。
- AIは、労働負担の軽減や生産性の向上、顧客満足度の向上などのメリットをもたらします。
- 昨今、リアルな文章や画像を生成するAI (以下、生成AI)が注目されており、実用化が進めば、知識を必要とする分野などで、自動化が進むと期待されます。

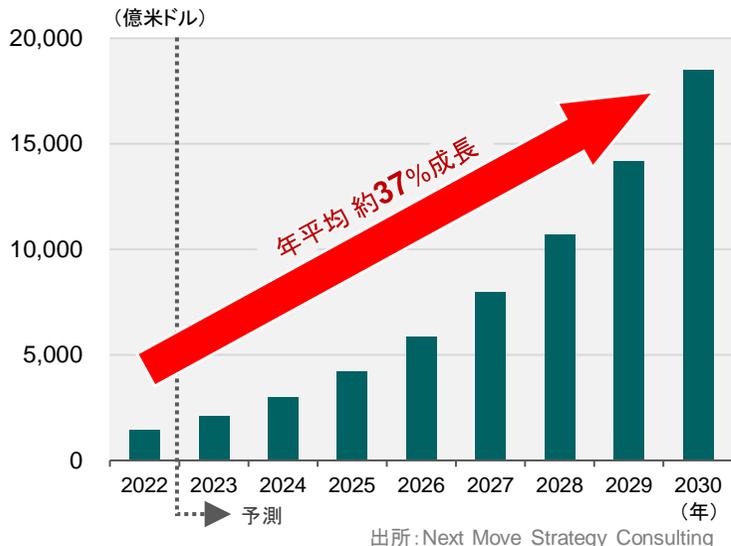
世界のAI関連市場

- これまでのAIは、主に既存データで学習して得た知識を、新たなデータに適用したり、予測したりする際に、利用されてきました。
- 近年は、ディープラーニング(深層学習)を活用し、例えば、ロボットが現実世界をある程度自己認識して行動する、といった開発が進められています。
- 2022年、AI関連に50億米ドル以上の投資をした産業は、医療・ヘルスケア、データ管理、フィンテック、サイバーセキュリティでした。

出所: Stanford University

■ 世界のAI関連市場の推移

(2022年～2030年 ※2023年以降は予測)



※上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。※公開情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。情報の正確性・完全性について当社が保証するものではありません。ページ記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。

さまざまなAIと生成AI

- AIは、単純な制御を行うエアコンの温度調節や漢字変換、人間の知識をプログラムに取り入れているAIチェス・将棋、チャットボットなどで利用されているほか、高度な処理を伴うツールにも搭載されています。

高度な処理をする例	内容	事例
機械学習を取り入れたAI	ビッグデータを基にルールや知識を自ら学習	検索エンジン など
ディープラーニング(深層学習)を取り入れたAI	人間の神経細胞の仕組みを再現したプログラムでルールや知識を自ら学習	自動運転、自動翻訳機能、IoT家電 など

リアルな文章や画像を生成するAI

従来のAI :

蓄積データの整理・分類を学習した結果に基づいて予測し、構造化された数値データや文章などを出力します。

生成AI :

蓄積データのパターンや関係を学習した結果に基づいて創造し、新たなコンテンツを出力します。

- 生成AIが注目される背景には、上記の違いに加え、学習量が増えたことによる精度の向上や出力の早さ、使い勝手の良さなどが挙げられます。
- 今後は、プレゼン資料の作成や、娯楽分野のコンテンツ作成、医療画像解析・治療計画の生成などへの応用が期待されます。
- 一方、誤った情報の拡散や、偽のメディアコンテンツが生成されるといった懸念があるほか、開発競争が活発化しています。
- 関連企業には、NVIDIA、Google (Magenta、DeepDream)、Microsoftなどがあります。

■ 世界の生成AI関連市場の推移

(2022年～2030年 ※2023年以降は予測)

